

ひょうごらくのうメモ

平成31年4月号

(平成31年4月15日発行)



ホームページ開設中



デイリーフォーラム in Hyogo

於：淡路農業技術センター

今月の主な内容

1	● 新年度のスタートにあたって・職員配置図
2	● 生乳生産量統計
3	● 行事、活動レポート・主な行事予定
4	● 技術情報
5	● 淡路家畜市場情報
6	● 隣県家畜市場情報
7	● 北海道産牛価格情勢
8	● 北海道乳牛産地情報
9	● 輸入粗飼料の情勢



発行：兵庫県酪農農業協同組合

神戸市西区伊川谷町潤和1058

西神文化センター3階

●「新年度のスタートにあたって」

4月1日、新元号「令和」の発表とともに兵庫県酪農協と致しまして第4期目となります新年度がスタートしました。5月には新天皇のご即位、10月には消費税率の引き上げ、これに伴う軽減税率制度の導入など社会的にみても節目の年となることは間違いありません。昭和から平成へ、そして新時代へ、酪農を取り巻く環境も大きく変化し技術面においても随分進化してきました。数年前までは夢の様な技術であった搾乳ロボットなどの先進設備も県内において普及しつつあります。一方、消費者から求められる生産物の品質や食品の安心・安全に対する意識も時代の流れとともに高まっており、生乳についてもローリー品質からバルク品質へ、そして牛個体の品質を求める時代になってきているのではないのでしょうか。

平成30年度の管内生産乳量は後にも報告がありますが、47,745トン(公共施設除)で年度当初の計画に対し96.3%にとどまりました。組合員の高齢化、後継者不在による廃業が予想を超え進んだことが主な要因ではありますが、生産基盤の弱体化が進んでいることは否定できません。今後、管内の生産基盤を維持・活性化していくには関係者が同じ想いで団結し、管内全体の生乳生産量の底上げを行うことが不可欠です。4月からは乳価の値上げが決定しています。また、近畿生乳販売農業協同組合連合会では生産者の増産意欲を後押しすべく「増産対策奨励事業」が実施されるなど、様々な施策が計画されています。組合員の皆様には、このような取組を是非、前向きに捉えて有効に活用いただきまして、管内酪農の活性化、組合員の皆様の収益向上に繋がることを願っています。

(T I)

生乳生産量統計

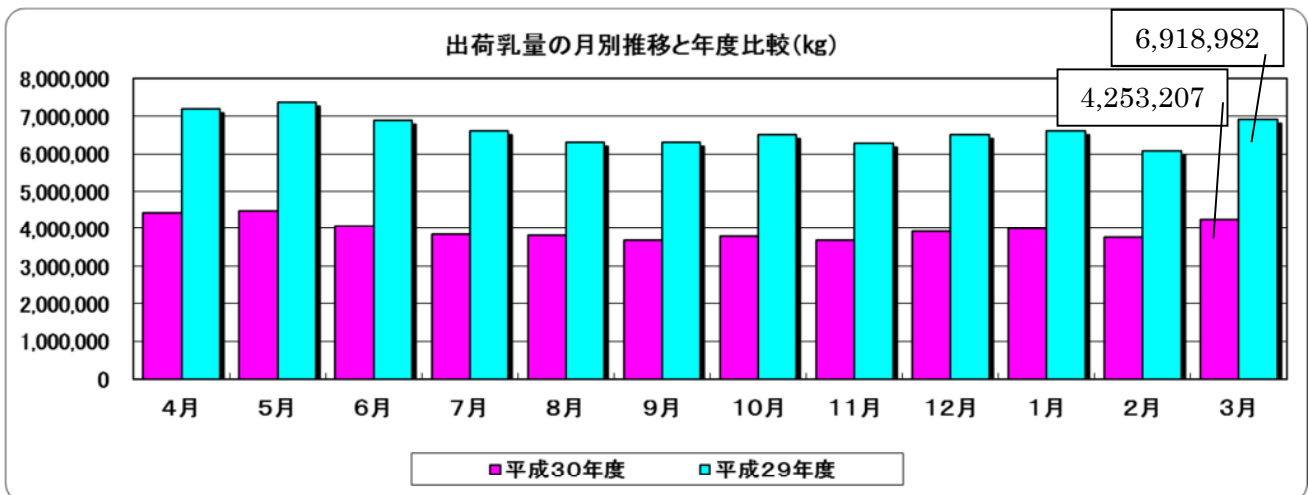
1. 全国（平成31年2月・農林水産省牛乳乳製品の生産動向より）

	生乳生産量（千トン）	対前年比（%）
平成30年 4月	623.3	101.1
平成30年 5月	647.6	100.4
平成30年 6月	620.5	101.0
平成30年 7月	616.2	101.0
平成30年 8月	606.5	101.0
平成30年 9月	560.3	96.5
平成30年10月	596.2	99.3
平成30年11月	579.8	99.5
平成30年12月	609.5	99.8
平成31年 1月	615.9	99.1
平成31年 2月	567.1	99.7
平成31年 3月		
平成30年度累計	6,643.0	99.9

※今回、概数値の修正をしています。

2. 兵庫県酪農協取扱い分（公共施設を除く）

地 区	平成31年3月		年度累計		出荷農家 戸 数
	生乳生産量 (kg)	対前年比 (%)	生乳生産量 (kg)	対前年比 (%)	
阪神地区	673,672	44.7	7,734,236	44.5	26
播州地区	1,222,118	48.3	13,364,866	44.7	41
丹但地区	390,750	57.6	4,620,646	58.3	18
淡路地区	1,966,667	89.2	22,025,975	90.6	114
合 計	4,253,207	61.5	47,745,723	60.0	199



理事会報告

平成31年3月22日、西神文化センター202号室において理事6名、監事1名の出席の下、第9回理事会を開催した。

永田組合長挨拶の後、平成30年度生乳計画生産進捗状況、2月1日現在頭数調査結果、平成30年度見込決算状況、平成30年度内組合員の異動状況、近畿生乳販連(控除項目他)を報告し、次の事項を協議・決定した。

- ①高品質生乳生産対策実施要領の一部変更について
格差金項目に氷点の基準を設け格付基準を追加。

- ②近畿生乳販連「増産対策奨励事業」について
同事業を組合として実施することの確認。

- ③平成31年度総会の開催日程について
日時：令和元年6月28日(金)午後1時半
場所：西神文化センター4階大ホール
上記で開催することを決定した。

- ④持分譲渡に伴う組合員加入申込の承認について
組合員の法人化に伴う、持分譲渡及び加入を承認した。(2戸)

その他事前検討として、総会までのスケジュール調整、平成31年度生乳受託販売契約の覚書他 調整・検討を行った。

○主な行事予定

(4月)

16日 Jミルクブロック会議

17日 家畜衛生推進会議(淡路・朝来家保)

19日 内部管理職会議

22日 西日本酪農青年女性会議通常総会

22日 理事会

23日 兵庫県酪農農業協同組合女性部通常総会

兵庫県自給飼料増産会議

24日 乳中脂肪酸組成活用方法に係る説明会

26日 セントラルジャパンホルスタインショウ

(5月)

畜産・酪農収益力強化総合対策基金等事業地域ブロック事業推進会議

(5月)

7日 内部・職員会議

10日 畜産高度化推進リース事業等推進全国会議

14日 決算監査会

デイリーフォーラム in Hyogo を開催しました！

兵庫県酪農協における生乳生産量増産へ向けた取り組みの一つとして、去る3月28日、「デイリーフォーラム in Hyogo」を淡路農業技術センターにて開催しました。

当日は年度末の多忙な時期にもかかわらず、組合員、関係者合わせて45名の方に参加をいただきました。



今回のテーマは「明日からできる飼養環境改善」と題し、全酪連技術顧問の成田修司先生にご講演いただきました。

牛にとって快適な環境をすることによりその能力を発揮させるという基本的なことの大切さを再認識させられる内容でした。



また、翌日には加東市の千田牧場において成田先生による現地指導バーンミーティングを開催しました。

近隣の酪農家有志も訪れ、実践に生かせるアドバイスを真剣な表情で聞かれていました。貴重な経験を今後に活かしてもらえればと思います。

今後も研修会等を積極的に開催させて頂く予定ですので、多くの方の参加をお待ちしております。また、興味のあるテーマや講師の先生がおられましたら組合までお知らせ下さい。参考にさせて頂き今後の充実につなげたいと思います。

～繁殖成績は「妊娠率」、「受胎率」、「人工授精率」

の3本立てで改善しよう～

兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センター畜産部 石川 翔

最も正確な繁殖成績の指標は「妊娠率」！！

酪農家の繁殖成績を比較するうえでよく利用されるのが分娩間隔です。しかし、分娩間隔には、人工授精で受胎して無事に分娩を迎えた牛のデータしか反映されません。そのため、それぞれの農場に少なからずいるであろう長期不受胎による廃用牛などは計算から除外されてしまうため、平均分娩間隔は正確な繁殖指標とは言えません。

右の図について、牛5頭を飼う2つの農家を比較しました。A農家はすべての牛が分娩後150日で受胎し、次の産次の平均分娩間隔は約430日です。B農家では5頭中3頭は分娩後比較的早く受胎しましたが、2頭は何度授精しても受胎せず、廃用することになりました。受胎した3頭の次の産時の分娩間隔の平均は約380日になり、A農家よりも50日も短くなりますが、この場合、単純にB農家の方が繁殖成績がよいとは言えません。図で示したのは極端な例ですが、農家個々の繁殖成績を正確に評価するためには、「分娩間隔」よりも「妊娠率」を活用することが推奨されます。

「妊娠率」は受胎率と人工授精率（発情発見率ともいいます）を掛け合わせて計算する指標であり、農場の繁殖成績を正確に表す

「平均分娩間隔」で農家の繁殖成績を比較して良いか？

農家A			農家B		
分娩間隔の平均	430	分娩間隔の平均	380		
	受胎日数	分娩間隔		受胎日数	分娩間隔
牛A-1	150	430	牛B-1	80	360
牛A-2	150	430	牛B-2	100	380
牛A-3	150	430	牛B-3	120	400
牛A-4	150	430	牛B-4	不受胎廃用	-
牛A-5	150	430	牛B-5	不受胎廃用	-

繁殖成績がいいのはどちらの農家ですか？

「繁殖成績」の評価について

繁殖成績の正確な評価には「妊娠率」の把握が重要！

$$\text{妊娠率} = \text{人工授精率} \times \text{受胎率}$$

繁殖成績向上の目標は
「妊娠率」
を向上すること

そのためには「受胎率」だけでなく
「人工授精率」を向上する必要がある

ことができる指標です。以下にそれぞれの計算方法をお示しします。

① 受胎率

「1回の人工授精につき、何%の牛が受胎するか」を表す指標です。牛の栄養状態、授精タイミングの適否、授精者の技術等に影響されます。

$$\text{受胎率 (\%)} = \text{受胎頭数} / \text{授精延べ頭数} \times 100$$

② 人工授精率（発情発見率）

「1つの発情周期（21日）毎に、未受胎牛の何%に授精を行えているか」を表す指標です。牛の栄養状態、農家の発情観察レベル、妊娠鑑定までの期間、繁殖治療の頻度などに影響されます。

$$\text{人工授精率 (\%)} = \text{人工授精実施回数} / \text{期待される発情数} \times 100$$

※期待される発情数の算出方法

期待される発情数の算出は、農場毎に設定するVWP（授精待機日数）の終了日に初回発情があり、その後受胎するまで21日毎に必ず発情がくるものとして計算します。

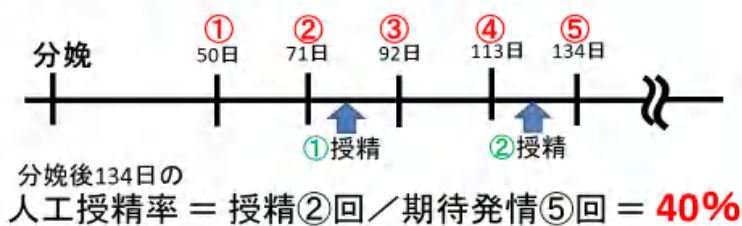
例としてVWPを50日としている農場では、分娩後50日目に1回目、71日目に2回目、92日目に3回目の発情があるものとして、以降、受胎するまで同様にカウントします。

人工授精率（発情発見率）とは？

人工授精率(%) ⇒ 期待発情数に対する人工授精実施回数の割合

期待発情数 ⇒ VWP（分娩後の授精待機日数）終了日を初回発情予定日として、その後21日周期で発情がくると仮定した場合の発情数
 ※VWPは農家毎に設定するが50～80日で設定する人が多い

例) VWPを50日で設定した農家の場合



③ 妊娠率

「1つの発情周期（21日）毎に未受胎牛のうちの何%が受胎するか」を表す指標で、栄養管理状態、発情観察レベル、繁殖管理の方針、授精者の技術等が総合的に反映される成績です。受胎率と人工授精率をかけ合わせて算出します。

妊娠率の計算例）受胎率 40%、人工授精率 50%の場合

$$\text{妊娠率 (\%)} = \text{受胎率 } 0.4 \times \text{人工授精率 } 0.5 \times 100 = 20\%$$

妊娠率が農場の繁殖成績を最も正しくあらわす指標！！

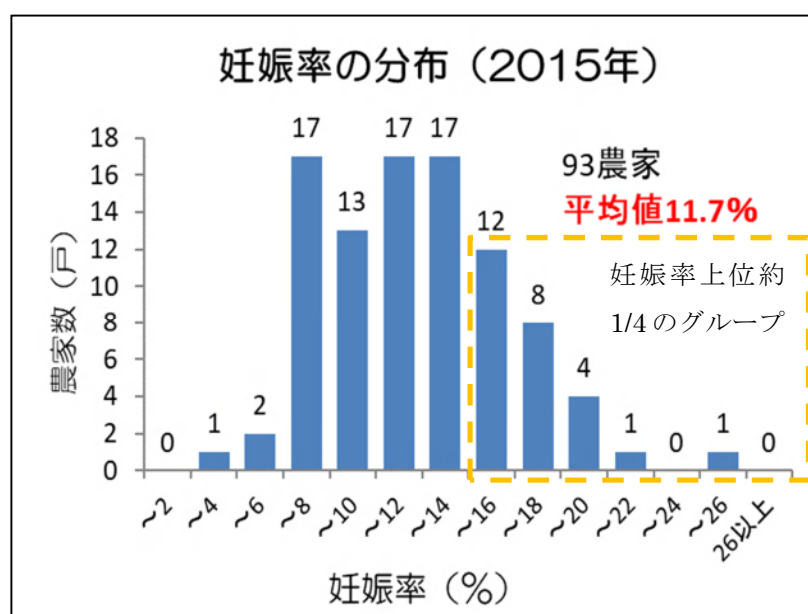
また、妊娠率は、下記の式でも計算可能です。

$$\text{妊娠率 (\%)} = \text{受胎牛頭数} \div \text{期待発情数} \times 100$$

妊娠率は農家によってどれ位違う？

農場の正確な繁殖成績の診断指標として有効な妊娠率ですが、農家の妊娠率を広く調査した報告はあまりなく、農場の妊娠率を計算しても比較対象がないため、その良し悪しの判断が難しいのが現状です。そこで当センターでは、酪農家の妊娠率のデータベースを作成することで繁殖改善の目標設定に役立ててもらおうと考え、牛群検定成績をもとに県内の酪農家のうち 93 戸の妊娠率を計算し、その分布を調査しました。また、妊娠率の計算の元となる「受胎率」と「人工授精率」について、その関連性を調査しました。

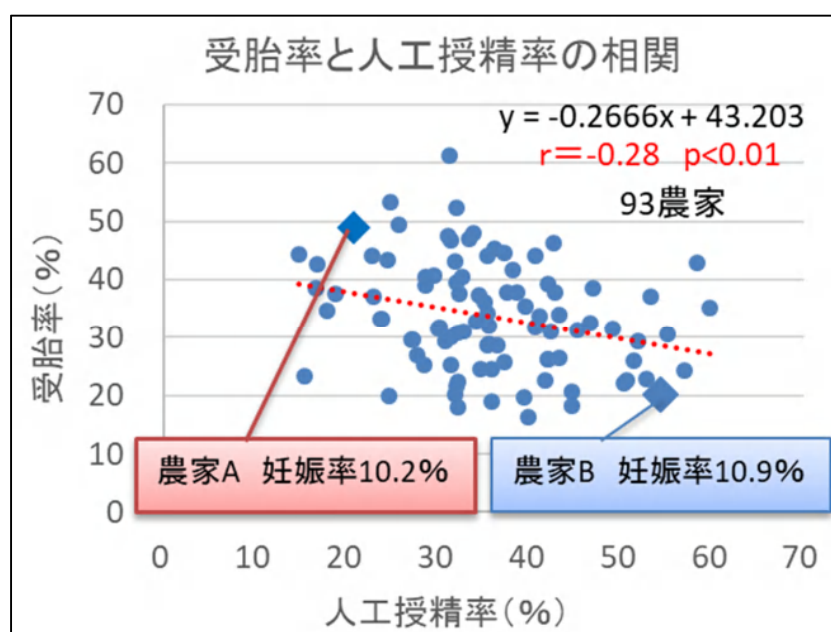
右の図は、兵庫県内の牛群検定加入農家のうち 93 戸の妊娠率を検定成績表から計算し、成績の階層別に農家戸数を示しました。妊娠率の平均は 11.7% となり、3% 台から 25% 台まで、幅広く分布していました。調査の結果、兵庫県においては、妊娠率が 14% 以上の農家は繁殖成績の上位グループ（上位約 1/4）に入ることが分かりました。なお、ここでは全ての酪農家の VWP



を50日として妊娠率を計算しました。妊娠率はVWPの設定日数によって変動しますので、ご注意ください。

繁殖の改善点を見極めよう！

次の図は、調査した93農家の受胎率と人工授精率の相関関係を図に表したものです。人工授精率が高い農家では受胎率がやや低くなる傾向にあることがわかります。

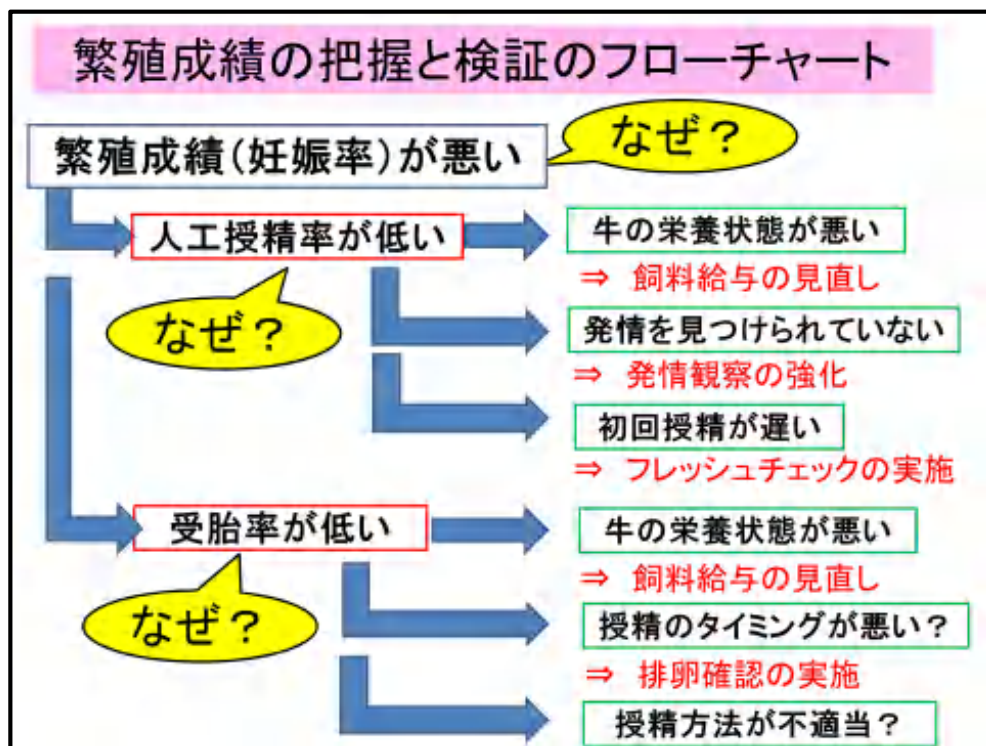


これは、人工授精率の高い農家では、積極的な発情観察により弱い発情でも発見し、授精を行っているからだと考えられます。積極的な人工授精の実施によって、結果として「妊娠率」が向上するのであれば、多少受胎率が落ちたとしても問題はありません。

この図の中のA農家とB農家は、妊娠率がそれぞれ10.2%と10.9%で、ほぼ同じ成績を示した農家です。しかし、Aの農家は受胎率が約50%と高いのですが、人工授精率は約20%と低くなっている一方、Bの農家では、受胎率は約20%と低いかわりに人工授精率が約50%と比較的良好な成績でした。Aの農家では発情観察の強化や初回授精の早期化で人工授精率を改善させることが、Bの農家では牛の栄養状態の改善や授精タイミングの見直しにより受胎率の改善をすることが「妊娠率」向上の近道になると考えられます。

このように、農家毎の人工授精率と受胎率を比較してみると、妊娠率が同等であっても、妊娠率を向上させるために重点的に改善すべき課題は農家毎に異なることがわかります。そのため、繁殖成績の向上に取り組むにあたっては、授精記録や牛群検定成績表を活用して自身の農場の「受胎率」と「人工授精率」をしっかりと把握することが

重要になります。そのうえで、次の図に示したフローチャートのように、より具体的な改善策を検討していくことが、繁殖成績向上の第一歩になると考えられます。



ここで紹介した妊娠率をはじめとする繁殖成績の指標は、慣れないうちはなかなか計算するのが難しいかと思います。ご自身の農場の繁殖成績について詳しく知りたいという方がいれば、淡路農業技術センターや県内の指導機関にご相談ください。

淡路家畜市場情報

平成31年3月9日

F1 スモール	メス	今回	頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
		今回	15	286,128	325,080	209,520			56		
		前回	21	248,040	327,240	55,080			57	38,088	15.4%
	前年	15	190,008	274,320	95,040			53	96,120	50.6%	
オス	今回	11	274,811	354,240	146,880			54			
	前回	21	304,509	361,800	200,880			55	-29,698	-9.8%	
	前年	24	239,175	335,880	179,280			54	35,636	14.9%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

ホルス スモール	メス	今回	頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
		今回	1	11,880	11,880	11,880			33		
		前回									
	前年										
オス	今回	16	82,553	104,760	21,600			50			
	前回	20	80,460	116,640	21,600			52	2,093	2.6%	
	前年	15	90,936	136,080	41,040			52	-8,383	-9.2%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

* 前は平成31年2月25日・前年は平成30年3月9日

平成31年3月25日

F1 スモール	メス	今回	頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
		今回	22	328,075	368,280	226,800			55		
		前回	15	286,128	325,080	209,520			56	41,947	14.7%
	前年	25	217,680	345,600	129,600			55	110,395	50.7%	
オス	今回	13	341,114	386,640	91,800			55			
	前回	11	274,811	354,240	146,880			54	66,303	24.1%	
	前年	19	293,419	355,320	128,520			54	47,695	16.3%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

ホルス スモール	メス	今回	頭数(頭)	平均価格(円)	最高価格(円)	最低価格(円)	平均体重(kg)	キロ単価(円)	平均日令(日)	平均価格の増減	対比
		今回									
		前回	1	11,880	11,880	11,880			33	-11,880	-100.0%
	前年										
オス	今回	10	139,752	174,960	24,840			47			
	前回	16	82,553	104,760	21,600			50	57,199	69.3%	
	前年	25	110,030	174,960	52,920			51	29,722	27.0%	
去勢	今回										
	前回										
	前年										

* 前は平成31年3月9日・前年は平成30年3月25日

隣県家畜市場情報

乳用種(雄のみ)

年 月	岡山総合		広島・三次		徳島畜産センター		平均・合計(全国)		
	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	
28年次	96,767	932	106,895	1,793	102,268	325	109,068	116,177	
29年次	92,552	987	102,384	1,786	83,819	313	109,647	110,536	
30年次	114,925	931	128,634	1,548	104,980	265	135,573	106,027	
30	1	86,606	110	107,563	99	62,640	18	124,526	9,214
	2	98,131	87	102,261	118	85,888	19	137,691	8,068
	3	117,531	80	123,281	141	98,451	19	158,390	8,423
	4	126,865	62	146,520	105	121,440	27	161,422	8,179
	5	146,442	74	159,470	105	167,091	14	156,889	8,845
	6	131,252	34	168,090	72	137,880	12	151,160	8,011
	7	151,004	66	158,593	110	182,520	11	136,450	9,205
	8	134,983	65	137,809	163	131,854	23	117,344	9,423
	9	121,656	76	120,268	156	92,417	14	118,081	9,056
	10	111,122	101	120,324	168	75,731	33	127,446	9,999
	11	101,422	88	125,346	197	115,210	37	128,441	9,343
	12	93,518	88	98,413	114	74,236	38	115,932	8,261
31	1	96,634	84	91,423	129	82,370	41	102,360	7,487
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								

交雑種・乳

年 月	岡山総合		広島・三次		徳島畜産センター		平均・合計(全国)		
	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	平均価格	取引頭数	
28年次	257,790	3,644	254,962	5,297	311,352	3,011	255,387	166,606	
29年次	266,574	3,424	261,231	5,066	310,015	2,848	260,017	156,761	
30年次	265,098	3,642	265,355	4,560	306,156	2,420	257,799	150,900	
30	1	224,052	410	214,641	317	283,535	244	220,702	13,957
	2	226,646	380	215,661	401	279,711	244	228,402	12,269
	3	245,195	347	227,786	515	269,499	237	247,634	13,155
	4	263,669	284	260,348	364	315,485	199	271,257	12,147
	5	291,953	275	282,132	330	320,427	175	278,094	12,768
	6	312,657	187	310,953	296	361,873	311	291,022	10,865
	7	296,223	246	315,086	292	362,384	111	283,769	11,795
	8	287,276	253	283,302	461	316,868	154	254,701	12,525
	9	273,584	286	275,638	377	294,961	161	251,290	12,152
	10	267,927	336	271,927	352	292,655	175	251,406	13,598
	11	273,716	302	276,629	458	291,466	193	260,225	12,929
	12	274,699	336	275,416	397	297,295	216	265,315	12,740
31	1	271,973	278	281,940	378	331,981	113	260,606	11,544
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								

※ 生後60日齢までの情報になっておりますので、ご注意ください。

北海道産牛価格情勢

(平成31年4版)

ホクレン家畜市場情報

(初妊牛ホル)

31年3月市場開催結果

家畜市場名	開催日	平均金額	前年同月比(参考)		
			前年同月比(円)	前年同月比(円)	前年同月比(%)
ホクレン十勝市場	6日	976,000円	991,000円	-15,000	98.5%
ホクレン北海道市場	8日	805,000円	902,000円	-97,000	89.2%
ホクレン豊富市場	15日	926,000円	951,000円	-25,000	97.4%
ホクレン北見市場	18日	940,000円	898,000円	42,000	104.7%
ホクレン釧路市場	20日	890,000円	962,000円	-72,000	92.5%
ホクレン根室市場	21日	903,000円	933,000円	-30,000	96.8%
ホクレン十勝市場	22日	913,000円	963,000円	-50,000	94.8%
平均		923,000円	950,000円	-27,000	97.2%

4月ホクレン市場日程と参考情報

開催家畜市場名	開催日	前月	昨年
ホクレン十勝市場	4日	976,000円	998,000円
ホクレン北海道市場	5日	805,000円	857,000円
ホクレン根室市場	15日	903,000円	985,000円
ホクレン釧路市場	16日	890,000円	973,000円
ホクレン北見市場	17日	940,000円	729,000円
ホクレン十勝市場	18日	976,000円	1,002,000円
ホクレン豊富市場	19日	926,000円	980,000円
平均		923,000円	982,000円

5月ホクレン市場日程と参考情報

開催家畜市場名	開催日	昨年
ホクレン北見市場	8日	896,000円
ホクレン十勝市場	9日	970,000円
ホクレン北海道市場	10日	858,000円
ホクレン釧路市場	15日	940,000円
ホクレン根室市場	16日	903,000円
ホクレン豊富市場	17日	888,000円
ホクレン十勝市場	29日	943,000円
平均		926,000円

兵庫県酪農協 指導購買課

北海道乳牛産地情報

(平成31年4月1日現在)

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	45～55	強含み	札幌管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で97.5%、累計で99.5%、苫小牧管内月計で97.0%、累計で97.8%の実績となっております。 4月の初妊牛動向といたしまして、6月分娩が中心となります。3月の同地域の乳牛市場はやや弱含みとなりましたが、庭先購買で求める中クラス以上の初妊牛に関しましては、出回り頭数も少な目なことから、4月も堅調に推移するものと思われます。F1腹、雌雄選別腹と一定数の出回り頭数はあります。初妊牛の堅調な動きにつられ、即戦力の経産牛も引き続き堅調な動きを見せるものと思われます。育成牛も春産みとなる月齢の上場頭数が増え、同地域の育成市場が高値にて堅調に推移していることから、庭先購買価格も強含みの動きを見せるものと思われます。
	初妊牛	82～92	横這い	
	経産牛	50～55	横這い	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	52～62	横這い	根釧管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.4%、累計で99.8%、中標津管内月計で100.1%、累計で99.9%の実績となっております。 4月の初妊牛動向といたしまして、7月分娩が中心となります。管内乳牛市場では平均相場はやや軟調で推移したものの、中クラス以上は高値を維持しており、新年度に入り駆け込みで春産みを求める動きや新規での導入助成情報も入っている事などから、引き続き高値で堅調に推移するものと予想され、庭先購買価格においても横這いで推移するものと思われます。4月に入り離農セール開催もあり、経産牛の導入も活発になる事から経産牛についてはやや強含みで推移するものと思われます。資源状況につきましては、例年通りの頭数は確保出来る状況となっておりますが、F1腹が少なく、雌雄選別腹が増えております。
	初妊牛	90～100	横這い	
	経産牛	62～72	やや強含み	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	48～58	横這い	帯広管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.1%、累計で103.2%の実績となっております。 4月の初妊牛動向といたしまして、6月～7月上旬分娩が中心となります。管内乳牛市場は高値が続いており、庭先購買価格も高値を維持しています。新年度に入り都府県において、新規また増額となる導入助成の情報も入ってきており、今後導入意欲が旺盛となることも予想され、4月の同地域の乳牛市場、庭先購買価格も高値圏で推移するものと思われます。F1腹、雌雄選別腹ともに資源は十分に確保できるものと思われます。経産牛は初妊牛の高値により、引き続き動きは強く、産歴の少ないものは高値となっております。庭先購買価格はやや強含みの動きとなるものと思われます。
	初妊牛	95～105	横這い	
	経産牛	58～68	やや強含み	
道北管内	育成牛(10-12月令)	45～55	横這い	道北管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.5%、累計で98.2%、北見管内では月計で101.7%、累計で101.7%の実績となっております。 4月の初妊牛動向といたしまして、6～7月分娩予定中心となります。当地域の乳牛市場も高値維持の状態が続いているため、庭先購買価格も同様の動きとなっております。資源について、7月分娩牛の出回り頭数は若干の増加が予想されます。しかしながら依然として都府県の導入が活発になることが予想されることから、価格は堅調に推移するものと思われ、庭先購買価格は横這いとなる見込みです。初妊牛の高騰が続く影響から、経産牛の購買にシフトする動きもあり、産次数の少ない経産牛の庭先購買価格はやや強含みになると思われます。
	初妊牛	87～97	横這い	
	経産牛	53～60	やや強含み	
道内総括	育成牛(10-12月令)	50～60	横這い	道内の3月中旬までの生乳生産量前年比は100.7%、累計で100.9%の実績となっております。生乳生産量の傾向として、十勝・北見管内で生産が順調で前年を超えており、道内生乳生産を引いている状況となっております。 4月の初妊牛動向といたしまして、6月～7月分娩が中心となります。新年度に入っても道内外の購買意欲も強く、引き続き高値相場となることが予想されます。即戦力である経産牛も初妊牛に押し上げられる形で、人気も高く高値となっております。今後は夏分娩に差し掛かるため、相場動向には注視が必要となりますが、庭先選畜購買を中心として安定的に搾乳素牛を供給して参りますので、導入希望・計画がありましたら早めのご注文を宜しくお願い致します。
	初妊牛	90～100	横這い	
	経産牛	60～70	やや強含み	

*上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。

庭先選畜購買のため、市場購買とは異なります。

全国酪農業協同組合連合会(全酪連)

札幌支所

☎011-241-0765

毎度、乳牛購買事業に大変ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
乳牛の導入計画がありましたら、最寄りの支所へご一報下さい。
担当者がお伺いし、最近の状況をご説明し、納得いただけるよう購買のお手伝いを致します。
また、購買後の輸送・事故処理は責任を持って最寄りの支所と札幌支所がお世話申し上げます。

《各事務所電話番号》

釧路事務所 ☎(0154)52-1232

帯広事務所 ☎(0155)37-6051

道北事務所 ☎(01654)2-2368

輸入粗飼料の情勢

全酪連大阪支所
酪農生産研究会

北米コンテナ船情勢

4月に予定されていた GRI（海上運賃一斉値上げ）は概ね回避されましたが、一部の船社はターミナルハンドリングチャージ（THC）などの各種チャージの値上げや、貨物が混雑している港に付加される Port Congestion Surcharge など新たなチャージの導入を開始しています。今後も同様な動きが増えていくと予想されます。

大型連休中の各地コンテナヤードの稼働・営業日はまだ全て明らかにはなっていませんが、連休前後の引き取りや、返却などかなりの混雑が予想されています。

ビートパルプ

【米国】

1月後半から2月にかけて中西部を襲った記録的寒波の余波が各方面に出ています。貨物輸送用の鉄道が一部地域で寸断され、タイムリー且つスムーズな受け渡しが難しい状況が続いていますが、日本向けビートパルプの出荷については今のところ大きな影響はなさそうです。

主産地における新穀の作付面積は微増と予想されています。現在、各産地では作付作業が進行中で、天候が良好であれば若干ながらさらに作付が増えることも考えられます。

米国では乳牛/肉牛ともに飼養頭数は増加傾向にあり、ビートパルプを含む飼料需要は堅調に推移しています。主要な繊維源の一つであるアルファルファは生産量の減少と中東や中国の需要の伸長によって価格は上昇、他の繊維源の相場についても軒並み堅調な動きを見せています。また、米中間の貿易問題により米国産を含めた飼料用穀物の需給地図にも変化が見え始めており、これら穀物相場の動向もビートパルプの新穀価格に影響を及ぼしてくると思われられます。

【中国】

米国産ビートパルプの輸入量は、米中間の貿易問題の影響で大幅に減少しており、直近では取引が実質止まっているようです。しかしながら、取引が再開した際の影響は世界のビートパルプの需給バランスに大きな影響を与えるため、引き続き動向には

注視が必要な状況と言えます。

アルファルファ

ワシントン州

産地では例年よりも降雪量が多く雪解けが遅かったことから、新穀の収穫に向けての作業がやや遅れています。今後の天候次第ですが、コロンビアベースン南部では5月上旬、北部では5月中旬頃から1番刈の収穫作業が始まる見込みです。

産地在庫は低級品を中心に極めて逼迫した状況で、新穀を迎えようとしています。同州では昨年対比+1%増の770,000エーカー程の作付面積になると見込まれていますが、国内外からの強い需要に対応できるかは不透明であり、新穀の産地相場の予想では早くも強含みを唱える声が聞こえています。

オレゴン州

今年の冬はワシントン州同様、降雪も多く天候で不安定だったため、在庫品のダメージが多いようです。僅かに残っていた旧穀在庫も輸出向けに高値で動いた事例も見られ、新穀を含めた今後の産地価格の高騰が懸念されます。

主要な産地における作付面積は前年並みで、オレゴン州全体では昨年対比6%程増加と予想されています。新穀の収穫は例年通り6月頃から開始される見込みです。

カリフォルニア州

カリフォルニア州全体のアルファルファの作付面積は前年対比6%前後減少の920,000エーカー程になると予想されおり、1909年の統計開始以来、最低の数字となっています。

一方、主産地の一つであるインペリアルバレーでは作付面積は微増しています。当地の新穀1番刈の収穫はほぼ終了しており、例年よりも冷涼な気候もあって、CP22~24%、RFVは200を超える高成分のアルファルファも多く生産されています。新穀の1番刈に対しては、米国内酪農家および一部の輸出向けからの引き合いが強く、産地相場は堅調に推移しています。

サンフォワンキンバレーの南部ベーカーズフィールド付近でも1番刈の収穫が始まっていますが、不安定な天候のため輸出向けには適さない品質が多いとのこと。同地域以北からネバダ州にかけても冷涼な天候が続いており、新穀の収穫作業は例年より若干遅れる見込みです。

ユタ州

5月中旬までに1番刈の収穫が開始される見込みですが、一部の地域では継続的に

灌漑用水の不足が見込まれています。同州での作付面積は昨年対比 5%程度減少と見込まれています。

米国産チモシー

18年産の産地在庫はグレードを問わずほぼ成約済となっており、今後は新穀まで買付けした玉を繋いでいくことになります。

2月に産地で降った大雪の影響で一時的にデリバリーが乱れましたが、産地では徐々に気温が上昇しており、今後のスケジュールは徐々に回復していくものと思われます。

新穀の作付面積は、18年産の産地相場が他作物に比べて相対的に高値で推移したことから若干増加するものと見込まれています。

カナダ産チモシー

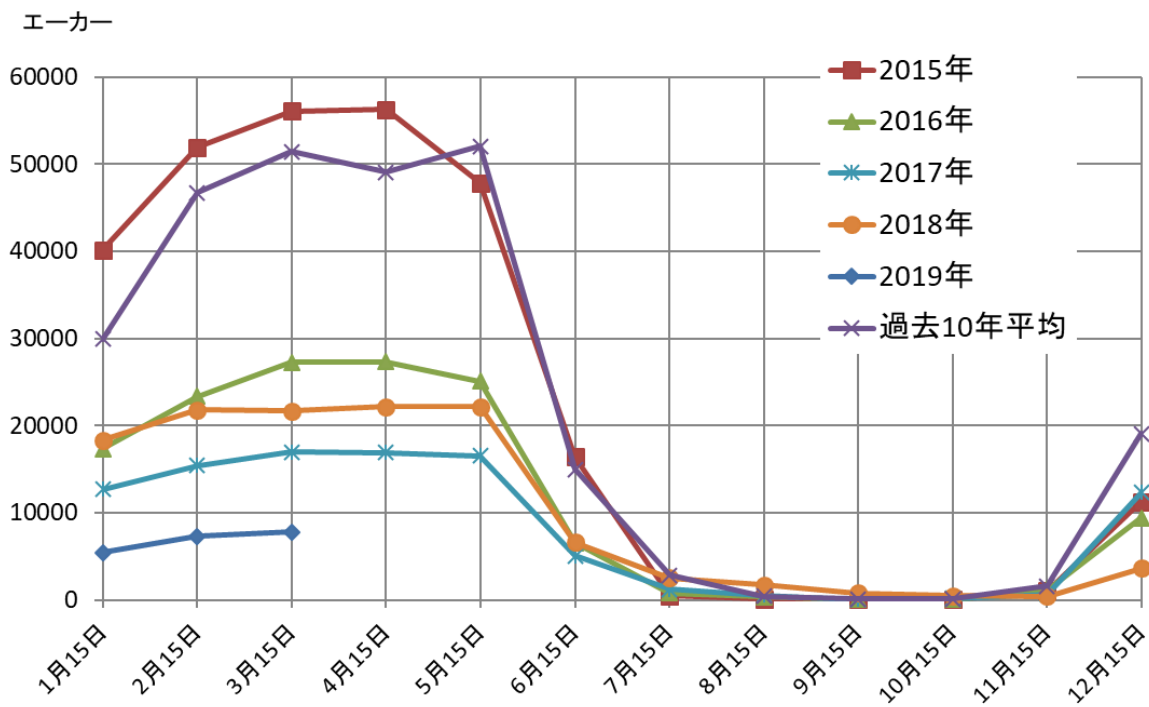
前月から大きな情勢の変化はありません。産地在庫はすべて成約済の状況となっており、今後は新穀まで契約済の在庫を積み出していくこととなります。

産地相場については日本および韓国からの需要が安定していることから、大きな変動なく堅調に推移しております。

スーダングラス

日本からの需要は上級品から低級品までグレードを問わず堅調に推移しています。2019年2月単月のスーダンの輸入数量は前年比114.6%と大きく増加しています。豪州産オーツハイの高騰により、相対的に安価な中～低級品のスーダンへの需要の移行が起こっていると考えられます。端境期に向かいつつある中での需要増により、18年産の繰越在庫がほぼない状態で新穀へ突入することになりそうです。

例年3月から本格化する早播きスーダンの作付面積に影響を及ぼすデュラム小麦の作付面積は、3月15日時点で前年同月比36%（約7,800エーカー）と産地相場の低迷を受けて大きく減少しています。

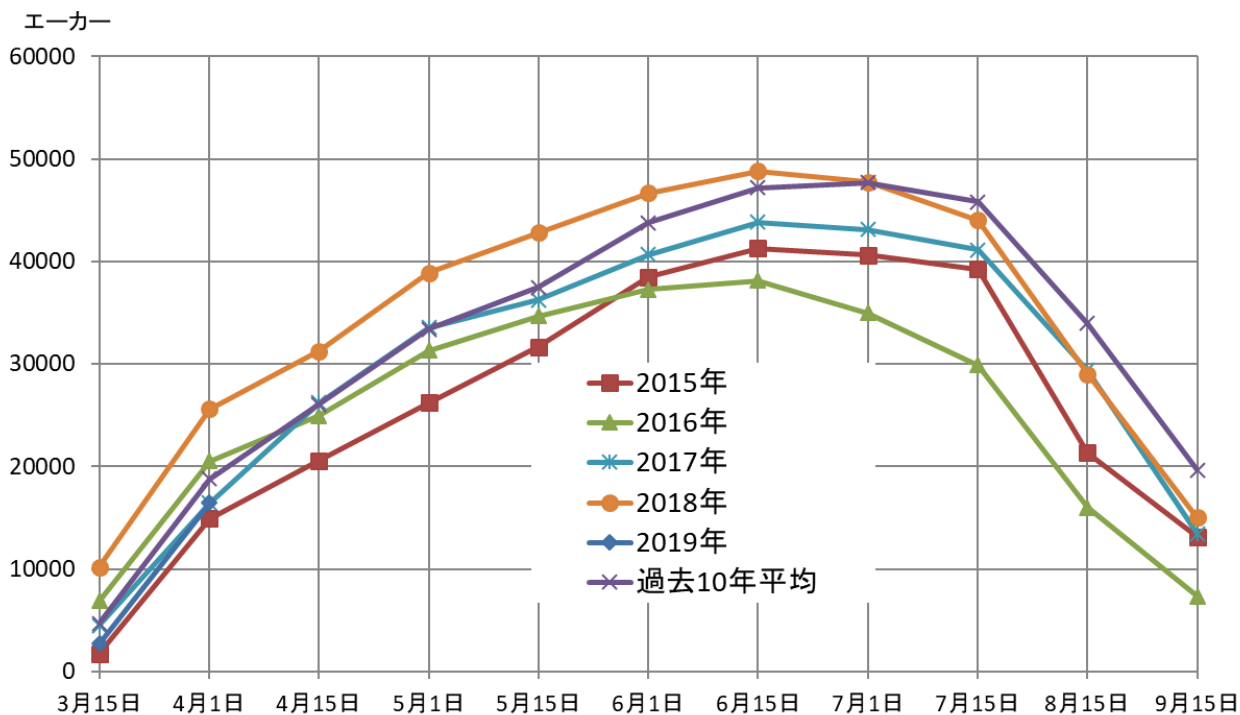


	1月15日	2月15日	3月15日	4月15日	5月15日	6月15日	7月15日	8月15日	9月15日	10月15日	11月15日	12月15日
2015年	40158	51951	56068	56252	47848	16399	529	132	86	53	1075	11284
2016年	17328	23379	27258	27308	25107	6565	802	373	45	45	1155	9407
2017年	12733	15443	16988	16913	16532	5102	1218	554	59	202	712	12323
2018年	18311	21818	21673	22181	22172	6639	2565	1714	799	478	461	3683
2019年	5477	7323	7817									
過去10年平均	29940	46693	51406	49055	52042	14966	2868	424	122	127	1617	19083

インペリアルバレー 小麦作付面積推移（単位：エーカー）

このため、早播きスーダンの作付面積は増加することが期待されますが、ほぼ日本向けに生産されているスーダン全体の需要が大きく伸長するとは考えにくく、最終的な作付面積は昨年と同程度～やや増加程度に留まると考えられています。

これまでの産地の気温は昨年よりも低く、早播きスーダンの作付は昨年より2～3週間程度遅れており、4月1日時点の作付面積は前年同月比64%の約16,500エーカーとなっています。これに伴い、収穫のスタートもやや遅れる見込みで本格的な作業は6月に入ってからと予想されています。



	3月15日	4月1日	4月15日	5月1日	5月15日	6月1日	6月15日	7月1日	7月15日	8月15日	9月15日
2015年	1752	14942	20561	26214	31644	38502	41260	40633	39247	21329	13150
2016年	6874	20497	24929	31326	34651	37268	38130	34990	29859	15979	7335
2017年	4503	16465	26207	33563	36250	40668	43834	43096	41138	29354	13449
2018年	10178	25621	31260	38881	42791	46694	48787	47747	44039	29010	15048
2019年	2722	16448									
過去10年平均	4691	18775	26075	33418	37452	43771	47185	47705	45809	33944	19647

インペリアルバレー スーダングラス作付面積推移（単位：エーカー）

また、昨年はスーダン種子の価格が高騰し、多くの圃場で播種量が意図的に減られ品質にも少なからず影響を及ぼしましたが、今年の種子相場は例年並みに落ち着いています。このため、昨年のような播種量由来による茎のバラつきは少なくなるものと期待されています。

クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

3月15日時点の作付面積は前年同月比120%となっています。好調な産地相場を背景に、クレーングラスの作付面積は昨年同期比で増加しており、19年産は生産量も比例して増加すると予想されています。

産地の気候は前述の通り、昨年よりもやや冷涼ですが、各圃場には3月下旬から新穀の収穫に向けて水入れ作業が始まっています。順調に生育すれば、新穀の収穫作業は4月末から5月上旬から開始される見込みです。

産地相場については、日本および韓国からの引き合いは一貫して強い状況が続いて

おり、高値のまま推移しています。産地には余剰在庫はほとんどなく、18年産の繰越在庫が枯渇した状態で新穀シーズンに入る見通しです。

このため、新穀の開始とともに日本および韓国からの買付が殺到し、産地相場のさらなる上昇が懸念されており、例年以上に慎重な対応が必要な状況です。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

3月13日に発表されたオレゴン州における主要種子の作付面積予測によると、グラス系種子の総作付面積は昨年比102.5%と増加する見込みとなっています。このうち作付面積を増やしているのは、アニュアルライグラスとトールフェスクで、ペレニアルライグラスの作付面積は昨年比89.3%と減少する見込みです。

種子の生産を予測する作付面積とストローの生産量は必ずしも比例するわけではなく、またヘーゼルナッツやホップなど他作物の生産も増加しているため、新穀に向けて産地の生産状況を注視していく必要があります。

日本および韓国からのストロー類への需要は堅調に推移しており、産地相場も大きな変動ないまま安定して推移しています。日本では昨秋、防疫上の問題から中国産稲わらの輸入量が一時的に減少し、米国産ストロー類の輸入量が増加しました。その後、中国産稲わらの輸入量は徐々に回復したことから、直近のストロー類の国内在庫はやや過剰となっているようです。

韓国では、オレゴン産ストロー類および豪州産オーツハイの相場が高値で推移していることから、より安価な米国産バミューダストローへ需要が移行しているようです。

豪州産オーツハイ

日本、中国および韓国からのオーツハイの引き合いは引き続き堅調に推移しています。早魃や収穫期の天候の影響によるオーツハイの生産量の減少、並びに豪州国内の畜産農家からの需要増加により、産地在庫は例年よりも逼迫感があります。

発生量が少ない上級品および低級品については、余剰在庫はなく、比較的発生量が多かった中級品についても、余剰在庫は限定的な状況です。

一方で、産地相場の高騰から日本向けの荷動きはやや落ち着き始めており、韓国では新穀が開始されるとともに、積極的に輸入量を増やしたため、その反動で国内在庫が積みあがっており、直近の需要はやや弱まっているようです。

このような一時的な需要の緩和は今後も定期的に見られる可能性はありますが、例年よりも産地の生産量が少ないことには変わりはなく、輸出向けや豪州国内からの需要が大きく減退するとは考えにくい状況であるため、今後の産地相場も高値のまま推移すると考えられます。

19年産の播種は、各産地において5月上旬頃から順次行われる見込みで、初期の生

育を左右する4月から6月にかけての降水量が今後注目されるところです。各産地の作付面積は18年産の在庫率の低さと内外からの堅調な需要を背景に増加すると予想されています。

以 上

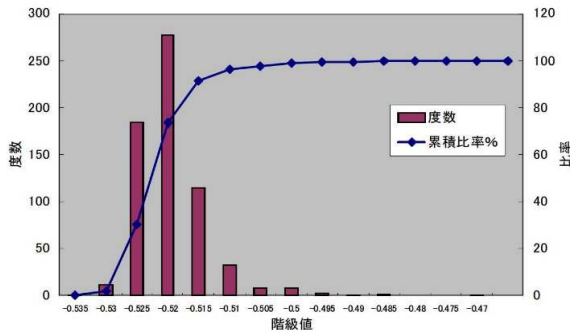
牛乳のおいしさに関するバルク乳氷点

牛乳の氷点は、牛乳が凍る温度であり、加水判定以外に、おいしさ等の総合的品質に関係する。

バルク乳氷点の変動要因は個体、季節、無脂固形分率と高い相関がみられ、牛乳品質向上のための新たな評価基準項目となりうる。

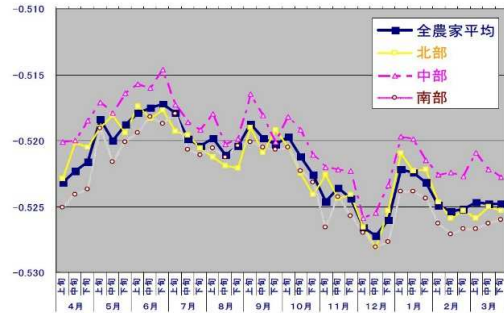
バルク乳：農家のバルククーラー（保冷貯蔵タンク）中の生乳

氷点の分布：バルク乳



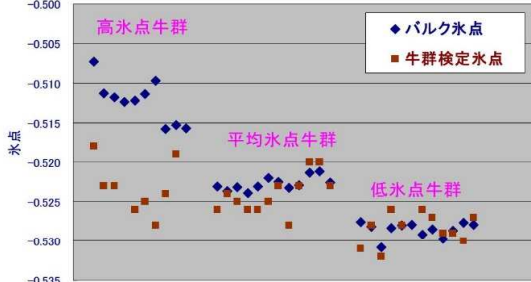
☆バルク乳氷点の平均値±標準偏差は
 $-0.522 \pm 0.006^{\circ}\text{C}$ で、高い値への
 バラツキが多く見られた。

氷点の地域別季節変化(H17年・平均値)



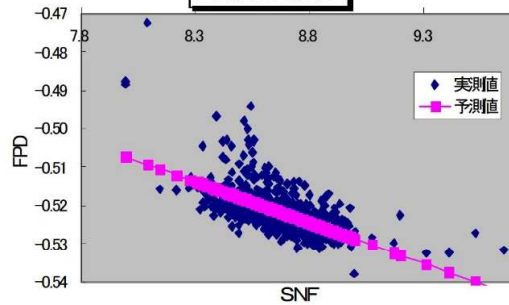
☆バルク乳氷点には、乳成分等と同様に
 季節変化が見られ、総合的な品質評価
 項目となりうる。

氷点のグループ比較(H17年・平均値)



☆バルク乳氷点の高い牛群はミルカー残水混入の
 疑いがあるため、ミルカー等の点検が必要である。
 バルク乳氷点の低い牛群は個体乳も低く、遺伝
 的要因又は良好な環境等が確保されていた。

回帰数と散布図



☆バルク乳氷点は無脂乳固形分率と比較的
 高い相関が認められた。また、体細胞数や
 蛋白質率とも相関が認められるため、生乳
 品質把握の指標となりうる。

氷点が $-0.510 \sim -0.4$ になった場合には、パイプライン内の残水が原因と考えられます。

この場合の解決策としては、パイプラインが波打つ等が原因で、しっかりした傾斜が取れていない事により、パイプライン内の残水がスムーズに排出されないと考えられますので、パイプラインの傾斜の改善をして下さい。

傾斜改善が困難な場合には、洗浄後、搾乳前にスポンジを使用して残水の回収を行なって下さい。

注意点 スポンジでの回収の場合は、数秒でスポンジが戻ってくる速度だと高速道路上で水の上を滑る現象と同じことが起こりますので、真空圧をいつもの半分程度になるように手で空気を調整しながらゆっくり回して下さい。

お買得! サイレージフィルム



組合では、大変お買得なサイレージフィルムを取り扱わせて頂いております。各地のTMRセンター等でも利用されている実績のある商品です。是非、ご利用ください！

《仕様》

厚み (μ)	幅 (mm)	長さ (m)	入数
25	500	1,800	1

お問い合わせ、ご注文は本所指導購買課、又は淡路事業所まで

全酪連からのお知らせ



カートップ

カートップET

ホルスタイン雌子牛 強化哺育[®]用



和牛・F1子牛 強化哺育[®]代用乳



全乳(販売不可能乳)のバランス調整用代用乳



※大口添付対策についてのお知らせ

既にご存知の方もいらっしゃると思いますが、全酪連の上記哺育製品を対象として

10袋につき1袋添付 (10 + 1)

20袋につき3袋添付 (20 + 3)

30袋につき5袋添付 (30 + 5)

50袋につき9袋添付 (50 + 9)

とさせていただきます(1回の配送に対して1ヶ所卸しの場合に限らせて頂きます)

哺育牛が多い場合などにご活用頂ければと思います。

ご不明な点につきましては、全酪連スタッフもしくは兵庫県酪協までお問い合わせ下さい